発行
昭和33年2月1日
第44号
印刷 松浦印刷所

大野市報

発行所
福井県大野市役所
編集人
大野市役所総務課
広報係
電話代表大野900番

常任委員会の委員を交代

第22回定例市議会

14議案を原案可決

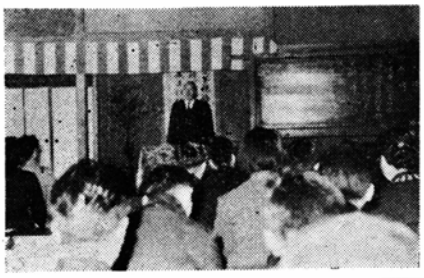
第二十二回定例市議会は十二月二十日午後三時五十分から下庄出張所において開会、議事日程を二日間に決め常任委員会委員の配置交代と十二議案を原案どおり可決、二つの報告を承認し二十一日午後六時二十分閉会しました。

午前十時に招集されていた市議会は定足数に達しないため開会が遅れていましたが午後三時五十分、定数に達したので議長は開会を宣言、時間延長を決め、市長のあいさつののち一たん休憩、四時再開議事日程を決め四時二十分閉議しました。二十一日は午後三時五十分開議、時間延長を決め本会議にはいりました。

開議ぼう頭、砂子議員から常任委員会委員の配置代えについての動議がでてこれを採択、五名の選考委員を作り各常任委員会の委員の人選をすることに決めました。

新委員は（◎は委員長○は副委員長）▲総務委員◎川崎港○土城甫、森嶋開造、土田信平、岸本達也、山川普、山本武、土屋栄、八名▲産業経済委員◎稲津忠右衛門○加藤哲治郎、松田確太郎、神田一栄、高田新左衛門、安川清、松本甚蔵、七名▲建設委員会◎白崎吉二○近藤又右衛門、筒井金作、南正雄、原健男、井野部裕、明石甚兵衛、七名▲教育委員会◎石田政治○砂子真吉、松田操、西川文右衛門、兼井彦左衛門、大葭原政治、面屋重雄、四方憲二、八名に決まりました。

続いて上提議案を、市池田助役が詳しく趣旨の説明を行い一般質問にはいりました。寒気に包まれた議事堂の中で真剣に討議が続けられていましたが全上提議案を原案どおり可決、このほか陳情請願を採択、それぞれ関係委員会に付託、六時二十分閉会しました。



越美北線レール敷設始まる

鉄道敷地の通行は危険

待望の越美北線は地元代表者らの猛運動も効を奏して、その後の工事が順調に進んでいます。とくに近日中にレール、枕木の施設や砂利、橋りようなどの資材の輸送も激しくなりますので、鉄道敷地と道路の交差箇所の通行は注意されるとともに、鉄道路盤上の通行は止めるように県土木部からの申しこしがありましたからとくにご注意ください

市建設の基礎がため

各界代表 二十余名で審議会

大野市は昭和三十一年度に新市町村建設計画調整の指定を受け、昨春いらい各課を動員し努力を重ねた結果、A五判三百八十頁にもおよぶ現況編と基本計画編がまとまりました。この資料をもとにして新市建設の具体的審議をするために各界各層の代表者（二十二名）で組織された新市建設審議会が一月二十三日市役所で開かれました。

この会の委員長に玉村忠雄氏を、委員長代理に市池田助役を決め本格的な調整の審議にあたることになりました。

この会の目的は合併当時の建設計画が、元の町村の要望をそのまま盛り込んでできあがつたもので、新市という全体的な立場からの検討が加えられず、ただ当面の施設を整備するということに重点が置かれているきらいがありました。

そこで国においても合併市町村の一体性を固め財政の健全化を促進して、地域社会全体が産業的、経済的、文化的共存発展を期する必要を認め昭和三十一年六月に新市町村建設促進法を制定して積極的に指導し援助することになりました。

当市はその最初の指定を受け目的を達成するため基礎調査をし、基本計画（昭和三十二年～同四十一年十ヵ年計画）と、実施計画（昭和三十二年～同三十六年五ヵ年計画）を作り、市の行政、産業、経済、文化、交通のすべての面について全体的に科学的に問題点を分析検討、明かるくてたくましい大野市の建設が円滑に実現できるよう計画がたてられることになつています

八三二名が明かるい門出

ことし満20歳に達する832名の方が立派な社会人として巣立つ記念すべき成人式は、1月15日市内各公民館で来賓多数を迎えて盛大に行われました。ここ大野公民館では、午前10時から140余名の成人者が集り、中村館長の式辞に続いて市池田助役や有志のお祝いと励ましのことばに、成人たちは決意と覚悟を新たにしました。ことに有中生の代表者二名からの祝辞には深い感動をおもざしに表わしていました。

また大脇勝山保健所大野出張所長から健康証明書の交付や成人講座受講皆勤者の表彰、記念品の贈呈が終つてお祝いの赤飯に舌つづみを打ちました。

午後は泉氏の記念講演に浪曲、映画観賞や意見の交換が行われ、午後4時閉会しました。

（写真は大野公民館長の式辞）

風見鶏

▼人工衛星、ミサイル時代の第二年目、ことしはどうやら内外ともども一段と忙しくなりそうだ。国会はいまにも解散しそうで、陣笠サマばかりでなく、どうやら当市にも話題がチラホラ ▼選挙といえば、ことしは当市にとつては当り年。六月に農業委員七月に市長選、明けて一月に市会議員、この間、どこかへ衆議院議員選挙が割りこんでくる ▼「カボチャの当り年」は、自分ひとりの食欲を満たす安易性をいうコトワザではない。人間の誠実に一貫した労苦の賜であり、実践への結果でもある ▼昨年十二月二十日の選挙人名簿確定数は二五、八五四名。これにことし成人された八三二名がプラスされるわけである。プラスの青年諸氏は、戦後の新しい教育を受けたキツスイの民主主義者である。初の選挙権行使を祝福申しあげる ▼しかしこの貴重な選挙権を行使されるに当つては、いまさら説教がましいが、どうか我利々々的な誘惑にヨロメカナイ「ことしはカボチャの当り年」にしてもらいたい。ましてや県選挙管理委員会から「選挙常時啓発運動モデル市」に指定されているわが市においておやである。

357,853,600円（32年追加更正予算）

31年度決算を付託

第二十三回臨時市議会は一月二十四日午後二時から下庄出張所で開かれ次の二議案を原案どおり可決、昭和三十一年度一般会計および特別会計歳入歳出決算は決算委員会に付託、午後五時散会しました。

第23回臨時市議会

▲議案第一号・決算の認定　決算委員会に付託

▲議案第二号・三十二年度一般会計追加更正予算は四千一百十一万九千円で、支出の主なものはあらたに中小企業融資預託金を一千万円計上して機業不振の緩和策に充てる先に融資預託した借入金の利子に二十五万四千円、三十一年度起債償還金に六十万円、前年度繰上充用金に二千三百四十六万五千円、移住奨励金に八百万円を計上し原案通り可決されました。これで当初予算を含めて本年度の予算総額三億五千七百八十五万三千六百円となりました

▲議案第三号・売買契約について　湯上、葛ガ原部落の関係する市有林の売買を大阪営林局長と結ぶために議会の同意を求めました。

◇

第22回定例市議会

第二十二回定例市議会の議案について簡単に解説いたしましょう。

▲専決議案第八十六号　財産処分について　これは有終西小学校校舎を新築するために旧校舎、木造二階建（一部平屋建）瓦葺二九八坪を公売するために議会の承認を得たものです

▲専決議案第八十七号・　起債および償還方法を定むる件　簡易水道事業を遂行するために必要とする工事費のうち二百万円以内を借入れしてもよいことに承認を得たものであります。

▲議案第八十八号・昭和三十二年度一般会計歳入歳出追加更正予算案　この追加額は一千九百六十六万五千五百円です。そこで予算総額は三億一千六百七十三万四千六百円となりました。

追加予算額の主なものをあげて見ますと歳出面では

▲議会費、旅費の増額六万五千円。

▲市役所費では七十万円の増、この主なものは上庄出張所の移築費で、これは上庄小学校校堂の新築に伴い敷地の都合から移築したもので九十五万円を計上各項の更正もあつて実質的には七十万円の増額となつています

▲土木費では二百二十二万円の増額、市道伏石・唯野線に架ける上阪谷橋、ならびに取付け道路の追加額が計上されています

▲教育費では五十四万六千八百円となり、有終南小学校運動場拡張のため敷地買収の手付金に五十万円、上庄小学校解体の付帯工事費に十七万円、下庄小学校排水工事に七万円、有終中学校特別教室増築に伴う電気工事費に十六万円。

▲産業経済費では二十五万一千七百円の増額、これは県単事業かんがい排水工事の補助金と同暗きよ排水工事の補助金ならびに耕地災害復旧工事の補助金です。

▲財産費の二百五十万円の増額は敷地一万坪の買上代金を計上

▲諸支出金では一千三百三十六万円が増額されています。これは湯上、葛ガ原部落の移住奨励金一千三百万円計上、このほか徴税費の印刷費や消耗品費が計上されています。

次に歳入面では

▲公営企業および財産収入で一千三百九十六万三千五百円、これは湯上、葛ガ原市有林売却代金一千三百万円、改築校舎およびその他の財産売却代金九十六万三千五百円。

▲国庫支出金、百九十五万二千円でこれは社会教育補助、引揚者事務補助、新市建設補助でいずれも国庫補助金。

▲寄付金九十万円、これは上庄出張所移転について地元上庄地区民からの寄付。

▲雑収入二百八十万円が計上されています。

▲議案第九十号・大野市国民健康保険運営協議会委員補欠委員の委嘱について　前委員西川長農助氏死亡につき後任に笹島竜人氏を決めました。

▲議案第九十三号・大野市消防団員など公務災害補償条例の一部改正について　この条例の改正に伴い今後は水防団員が水防作業に従事して災害を受けた場合は公務災害補償を受けることができるようになりました。

▲議案第九十八号・市有財産の払い下げについて　湯上、葛ガ原部落が木本原移住により不要となつた湯上分校を同住民に協同作業場として無償払い下げをしました（欠号は略しました）

白銀の魅力

奥越公園の連山が白いベールにおおわれるころは荒島六呂師はスキーヤーにとつて楽しい夢の里。

1月26日、こと六呂師スキー場では、高松宮賜杯予選兼県民体育大会スキー競技会に県下から集つた若い人達が血と肉をおどらせた。また2月2日午前9時からは、荒島スキー場で市民スキーの祭典が繰り広げられることになつている。（六呂師丸山ゲレンデの滑降）

木の本開拓地に新しい部落が三ツ

西谷村に造られた県営ダムのために、木の本原開拓地へ移住を余儀なくされた水没者が集つて、千年（チトセ）部落（十六世帯）南春日野部落（十二世帯）が造られました。この二ツの部落は小山出張所管内に加わることになりました。

また仏原、湯上、葛ガ原部落も同地へ移住しましたが、この部落名は榎（エノキ）部落（二十世帯）と名づけられて上庄出張所に屬することになりました

大野微電力放送十五日から開始

市内ではNHK福井放送がたいへん聞こえにくいので市長始め地元有志のご協力により、関係方面への積極的な働きかけが実を結ぶことになりました。

友江変電所に微電力放送（福井放送局から送られた電波を友江変電所のアンテナでキャッチし、電波の調整をしてから一〇ワットの電波を、三、三〇〇ボルトの高圧線に流す方法）が設置されることになりました。

いまこの工事中で、今月の十五日から放送を開始することになつています。

この放送が開始されますと廉価なラジオ、三球四球のラジオでも良く聞えることになります

公売公告

一、物件の所在　大野市西一番三二七号一一三番地

一、物件の名称　大野市有終西小学校旧校舎

一、区分および数量

A　校舎木造二階建一部平屋建瓦ぶき延二三二坪

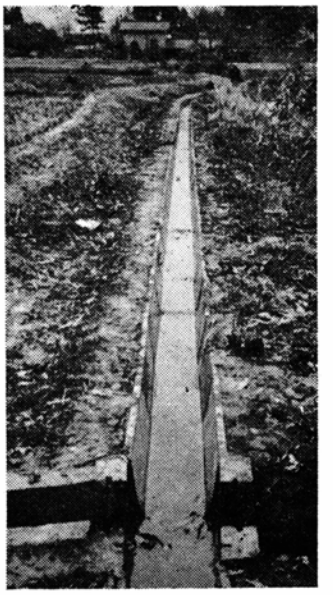
B　校舎木造二階建瓦ぶき五〇坪

C　便所木造平屋建瓦ぶき一六坪合計二九八坪

右の建物を左記により公売するから買受けを希望するものは、現地現物および入札心得書を熟覧の上入札せられたい

昭和三十三年二月四日　大野市長　斎藤重雄

△公売の方法　入札　△入札および開票の場所、市役所市長室　△入札の日時　二月十三日午後一時　△契約保証金　百分の十　△加入保険金　百分の五



市単事業 御給水路一八四メートルが完成

市単事業御給水路は工費十三万九千円で、延長百八十四メートル、幅三十六センチメートルを昨年十一月に着工、この工事の完成を急いでいましたがこのほど完成し、関係農民を喜ばせています。

いままでこの水路は非常に朽ちていたために旱ばつを受け、農作物の減収をまぬがれなかつたのですが、この完成によつて必要なときに必要なだけの水利に恵まれることになり、今後は耕地の高度利用はもちろん、農作物の増収が約束されたわけです

このようにして限られた耕地をうまく利用して、増産を計画することが現代の農業経営にとつてもつとも大切なことと思います。

今後は各農家組合ごとに自主的に土地改良事業計画を立て、緩急順位を決め農務課へ要望して、年々計画的に土地改良を行うことがもつとも効果的だと農務課ではいつています。

経営者自ら新しい眼を

第3回商店診断　香取氏の寄稿から

わたくしは、現在大野市の数多い商店はくたびれた古いからを脱ぎ捨てて、新しい装いをこらした店へと移り変りつつあると思われます。しかし店舗さえ新しく改装すれば事足れりと思うのはあまりにも商売を簡単に見過ごしているきらいがあると思います。

ただ店舗だけ新しくすれば、すぐにも客の購買心をそそつて売上げが増進できるなどと考えることは結局、改装という名の上にあぐらをかいて漫然と収益の増加を夢みている格好にほかならないのではないでしようか

世界的にみて文化の幅は大都市と小都市との間に、その差がますます少なくなつてきています。電気洗タク機一つにしても電気カマ一つを見ても、もはや都会人だけのものではなく、どんないなかへ行つても見ることができるほど、文化は進んできています。

こうして客の感覚が非常に近代化され、洗練されつつあるにもかかわらず、依然として軒先の低い、薄暗い天井の黒光りした店舗では、この進んだ感覚をもつ客の好みに、アッピールすることができるかということについてはお話するまでもないことであります。

この新しい時代に対応するためには店舗を美しくすることはいうまでもなく、陳列設備も陳列法も新しくして、販売法も接客法もまた改めなければならないと思います。いままで余り関心の払われていなかつたサービスや、宣伝の面には時代にあてはまつた考えも持たなければならないと思います。

要するに、店舗の経営者自身が時代を見とおす、するどい心の眼を持たねばならないことで経営の近代化が実現されて始めて完全な新しい町に生れ変るのではないでしようか。

グラフを眺めて

産米 ⑳ 今年も人工豊作で

数字をグラフにして眺めますと、より数差がはつきりして見えます

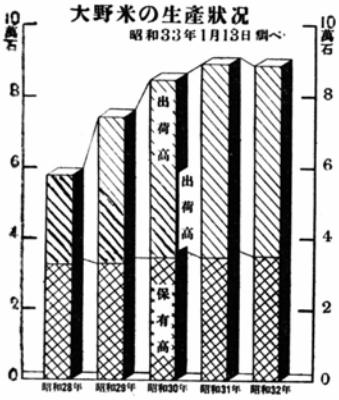
ここで市の年別産米出荷高を示して見ますと昭和三十一年産米が最高を示していますが、推定実収高では昭和三十年八万八千百石、昭和三十一年八万七千二百石、昭和三十二年八万六百石となり、当市も全国的な例に漏れず昭和三十年産米が史上最大の豊作であつたということになります。

しかし当市の出荷米高では昭和三十一年の方が多いことは従来農民の間にいわれていた「豊作の翌年は凶作に見舞われる」とのジンクスに備えて、翌年に持ち越されたものでしよう。

ともあれ「昭和三十年の豊作はお天道さま豊作」昭和三十一年、同三十二年は気象条件は良くなかつたが、これを人の力によつて豊作に持ち込まれたため「人工豊作」といつています。

この豊作の蔭には、うだるような暑さもよそに、呼吸も止まるような思いでの薬剤散布や成育管理のほか、農閑期にも休みなく土地改良や耕土の培養に尽した粒々辛苦と、科学化した営農法がこの記録的な連続豊作を生みだしたものでしよう。

今後もまた豊作を生みだすために全国的にも例の少ない農業文化のセンター農業実験室を十二分に活用し、さらには土地改良や農政については農務課とがつちり手をつなぎ合せ普及技術員や農協指導員の指導を実直に守りことしも三年続きの人工豊作を作りだしましよう。



そして健康で明かるい生活の基礎を固めることに意を払い従来の米麦一偏倒の偏重した農業経営から、有畜多角化農業へと踏み切る心構えと、資本の蓄積にあたりましよう。

農事メモ

二月は恒例により講話会の季節であります。いままでの座談会はしやべりつばなし聞きつばなしの講話会になつてしまいましたが、これからは普及員や技術員とヒザをつき合せて、新年度の計画を十分検討するような本当に味のある座談会にしたいと思います。

このためには前年度中に行つてきたことを十分反省する必要があります。すなわち品種の問題、施肥設計、病虫害の発生のありさまや防除時期などについて数多くの悩みがあろうと思いますから、このようなことを多く質問していただいて、真剣に論議するようにしたいと思います。

真宗王国であるこの地方は、ともすると何事によらずあなた任せの他力本願が喜ばれていますが、自家の経営を向上して収入を増して行くには当然努力がなければならないと思います。

ムギ、ナタネ、玉ネギなどの作付してある圃場には黒土を散くようにします。これによつて一日も早く作物に陽光を当て、冬作物を早く雪からだしてやるようにします。またソサイ類の温床もこの月から始まります。

広い田圃でも地力の増進をやかましくいつているのに、たいせつな苗を育てる少ない床土の地力をあまり考えないということはどうしたことでしよう。

ソサイの育苗はかなりの技術と資材を要しますが、といつて人の作つた苗を買つて植えているのではいけません。

お互いに勉強し研究してこの地方にあつた栽培技術を修得するように努めましよう。

國保相談室

⑬

正直者がバカをみないよう滞納整理を徹底して欲しい

M子　待望の大野地域国民健康保険が再開されました。わたくしたちは今後の運営に協力していかなければならないことは当然ですが、保険税や一部負担金の納付については正直者がバカをみないように完全徴収に努力して欲しいと思います。

そこで保険税や一部負担金の納付については、規則に定められた特別の事由がなく、しかも納めることに誠意がない場合は当然滞納処分が行われることになると思いますが、一応その法的な根拠をお知らせください。

（答）保険税は地方税法第七二八条「期限までに税金又は納入金を完納しない場合においては徴税吏員は、当該地方団体の条例で定める期限までに、国税徴収法の規定による滞納処分の例によつて、これを処分しなければならない」により、一部負担金は国民健康保険法第七条の二「保険料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徴収金ヲ滞納スル者アルトキハ国民健康保険ヲ行フ市町村ハ地方自治法第二百二十五条第一項乃至第五項及第十項ノ規定ニ依リ之ヲ処分ス」によつて、滞納処分をされることになります

保健課ではご期待にそうよう全力をあげてこれにあたっていますから、皆さん方のご協力を切にお願いいたします。

〔郷土いろはかるた〕

う　雨量は年に二千ミリ

福井県は日本でも雨量の多い所で、ことに冬と六月、九月に多い。大野では一年の降水量は二千三、四百ミリで、六月の梅雨は稲の成育に好都合であるが、刈入どきの九月に台風の降らせる雨はさまたげになる。冬の雨量は積雪をとかした水の量ではかるが、これは大野が県下でも一番多い。

同情袋に九万六千円

市内の恵まれない方々にも楽しいお正月を！　の趣旨による歳末助け合い運動は、市民のご協力が実を結び予定以上の成果を収めて係を喜ばせました。

真心のこもつたお金九万七千三百六円（同情袋で九六、一〇六円、一般寄付金一、二〇〇円）と有終三校から集つた四千個の正月餅は次のとおり配分されました。

△被保護者二百四十世帯に五万三十八円　△要援護者七十世帯に一万五千十七円、その他療養所入所者に二万三千七十五円、残り一万四千百三十六円は随時困窮者に贈る予定お餅は困窮者一世帯に十五個あて贈りました。

今月の行事

六日～十一日　△巡回映画会（教育映画、その他）ところ小山地区

九日（日）　△大野市連合青年団第二回青年生活発表大会　ところ大野公民館　△大野市民カルタ大会　とき午後一時　ところ大野公民館

上旬　△卓球大会　とき午前十時　ところ上庄公民館　△社会教育委員会

十二日～十六日　△巡回映画会（教育映画、その他）ところ阪谷地区

十四日（金）　△戸籍事務研究会　ところ下庄出張所

中旬　△婦人と青年との語る会　ところ上庄公民館　△文化財保護委員会

声

私の提唱

旭　高木生

明治の中ごろに有終校で学んだ私にとり、愈々近く西校改築着手は誠に心嬉しく感じます。

今回の工事は当市としても一大建設事業であるだけに、市理事者としても事業執行に十分意をはらわれていられることとは存じますが最近当市の諸請負工事に関して世間の疑惑を招く新聞記事面を見るにつけ、その真偽は別として誠に暗い感じをいだかせる次第ですから、全工程を通じて明朗にして公正なる建設事業としていただきたいと思います。

郷土風物誌

平沢寺（シャカ堂）のいわれ
もとは宝慶寺の末寺

古刹鷹福山・宝慶寺は日本曹洞第二道場であつて曹洞派の巨刹であることは誰でも知つています。この末寺は曹源寺、徳厳寺、光徳寺、阿弥陀寺（池田村水海）仏母寺（勝山市片瀬）などであつたこともわかつています。このほかに土橋（昔大野町が春日から山王までであつたころの町名）の眞善庵、笠松（現在の宝慶寺小学校付近をいう）の新豊庵、瑞泉庵などが末寺であつたことはあまり知られていませんでした。

この三ヵ寺は早く廃寺となりいまはその寺跡すらわかりません。このほかに平沢部落の平沢寺が宝慶寺の末寺であつたことはほとんど知られていません。

平沢山の中腹にいまも寺屋敷といわれる跡が残つています。そこには清水が常にわきでて、どのような旱ばつの年でもこの清水だけはかれたことがありません。この清水こそ平沢寺の御膳水であつたと思われます。

宗派は天台か真言のいずれかよくわかりませんが、本尊はシャカ如来で、坂井郡豊原寺の滅亡のとき、ここに移されたものであるといわれています。

この平沢寺も天正の兵乱のときに焼かれその後曹洞宗に転じ宝慶寺の末寺となつたようです

（いわれのシャカ堂）

本尊はひとときに宝慶寺に移されていたこともあります。

徳川時代の中ごろに平沢山ろくに庵を建て、本尊を宝慶寺より迎えてこれに安置し、シャカ堂と称するようになりました。庵主もここに住まいし田地十五俵元、山林千刈りを持つていましたが、明治の初年から無住庵となつて、守護が行届かなくなつたので昭和のはじめに森広治兵衛氏庭内に移されて、いまは同家に鎮護されています。

前記のシャカ像は宝慶寺に移されてあつたのですが、夢のおつげに平沢へ帰りたいとのことで、これは捨ておけないと平沢部落の人がさつそく宝慶寺へお迎えに行きました。不思議にも宝慶寺でもおなじような夢のおつげがあつたので、部落の人がこの仏像をいただいて平沢に向う途中、両方の人たちが偶然にも木本部落の岩崎で出合つたのです。そこでいわれを話しあい平沢の人に渡し、昔のように平沢寺に奉安することになつたと伝えられています。

（シャカ如来像）